

平成29年度第4回小串警察署協議会会議録

開催日時	平成30年2月23日（金） 13:30から15:30まで	
開催場所	下関市豊浦町大字小串191-1 小串警察署1階 講堂	
出席者	委員	西島英敏、矢田瑞枝、高野多紀子、大石正夫、前田敏道 計5人
	警察署	署長、次長兼警務課長、会計課長、刑事生活安全課長、 地域交通課長、警備課長、会務係員 計7人
議題	1 警察業務の推進状況 2 交通死亡事故抑止対策の推進について（協議）	
<p><b>1 会長挨拶</b></p> <p>本日は、大変お忙しい中、お集まりいただき有り難く思う。          ここ最近、かなり寒い日が続いている。今日は車の中などはとても暖かったが、          風はまだ冷たく感じる。</p> <p>今日の諮問事項は、交通死亡事故抑止対策であるが、ご存知のように最近、福          井県で大雪のため車が渋滞し、渋滞に巻き込まれた方が車内に入り込んだ排気ガ          スにより死亡するという、今まであまり聞いたことのない事故が起きていた。</p> <p>そして去年は、特に高齢者の方が交通事故の被害者となって亡くなることが多          かったと思う。</p> <p>また最近、自転車による交通死亡事故が目立ってきているように感じる。自          転車だからといって、ほとんどの方が保険に入っていないと思う。自転車の事故          で相手を死亡させたり怪我をさせた場合は、当然、賠償責任の問題が出てくる。          以前起こった自転車の交通死亡事故で一番悲惨に思ったのは、自転車に乗った1          1歳の子供が相手を死亡させて、約9,000万円の賠償金の支払いを命じられ          たというものだ。11歳の子供であれば、当然、保護者の責任ということにもな          る。このように自転車の事故でも大変なことになるということで、学校の方でも          自転車の保険に入るように指導していると聞いている。</p> <p>最近はいろいろな種類の交通事故が増えているところであるが、委員の皆さん          の忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたいと思う。</p> <p><b>2 署長挨拶</b>          （省略）</p>		

### 3 署長業務説明

#### (1) 警務課・会計課関係

##### ア 警察安全相談

平成29年12月末の警察安全相談の取扱状況について説明した。

##### イ 広報活動

平成29年12月末の広報活動推進状況について説明した。

##### ウ 遺失物関係

平成29年12月末の遺失届、拾得届の取扱状況について説明した。

#### (2) 地域交通課関係

##### ア 110番通報への対応状況・トータルリスボンスタイム関係

平成29年12月末の110番通報への対応状況及びトータルリスボンスタイムについて説明した。

##### イ 交通事故発生状況

平成29年12月末の交通事故発生状況について説明した。

##### ウ 交通指導取締りの推進

平成29年12月末の交通指導取締りの推進状況について説明した。

#### (3) 刑事生活安全課関係

平成29年12月末の犯罪情勢と犯罪抑止・検挙活動の推進状況について説明した。

### 4 協議～交通死亡事故抑止対策の推進について～

平成29年中の全国、山口県内、小串警察署管内の交通事故発生状況及び交通死亡事故抑止対策について説明した。

### 5 諮問事項に関する質疑応答

(次長)

ただ今、地域交通課長の説明にもあったが、昨年、当署管内でも1件の交通死亡事故が発生しており、平成28年と合せて2年間で5名の方が亡くなっているが、いずれも下関市内の方が事故当事者であった。昨年発生した久森交差点の死亡事故は、直進のバイクと右折の軽四の衝突事故で、バイクを運転していた方が亡くなっている。この方は、旧下関市内居住の方であった。平成28年の死亡事故は、1件目は豊北町神田で歩行者2名がはねられた事故、2件目は川棚でバイクの運転手による単独事故、3件目は宇賀で歩行者がバイクにはねられた事故であった。このように当署管内の死亡事故は、バイクによるものが多いということである。先ほどの地域交通課長の説明にもあったが、今から暖かくなると角島に向かう車やバイクが増え、交通事故も増加してくる。

しかし、この2年間は県外の方が交通死亡事故を起こしたことはなく、全て下関市内居住の方の交通死亡事故という特徴もある。警察もいろいろと施策等をやってきているが、交通死亡事故は身近なところで発生している。皆さんの親戚や友人、知人の中には、交通死亡事故の被害に遭われた方を知っているという方がいるのではないかと。

それでは、委員の皆さんのご意見等をお願いする。

(委員)

私は少し前に、小串署の貸出し用のドライブレコーダーを車に付けて走ったので、その時のことについて話したいと思う。私は、JAFの会員になっていて、その機関紙が毎月送られてくる。その機関紙の中に、「危険予知」という記事が毎月載っており、いつもその記事を読んで、自分は危険の予測ができると思っていた。しかし、今回10日間ドライブレコーダーを付けて走ってみて、自分では注意して運転したつもりであったが、交通課の方に記録を分析していただいたところ、脇道から車が出てくる時や歩行者が横断しかかった時の運転が駄目であった。今回、ドライブレコーダーを付けて記録を分析してもらい、なるほどと思うことが多くあった。運転に対する慣れや甘く考えていたことがよく分かった。たまたま事故にならなかったからよかったという場面も、ドライブレコーダーを付けてみてよく分かった。

(次長)

その後、委員はご自分でドライブレコーダーを購入されたのか。

(委員)

早く付けようと思っているが、種類が多いので検討中である。

それとドライブレコーダーの映像を見せてもらった時、暗い夜間でも鮮明に画像が映っていて、仮に夜間に事故に遭ってもよく分かると思った。

(次長)

最近は、画質がとても良くなってきているので、仮に事故があったとしても鮮明に映る。

(署長)

安全運転管理者の会長をやっておられる方も、委員よりも前にドライブレコーダーを借りて車に付けて実際に走っている。その方は、「こんなにも自分の運転はいけなかったのかということに気が付いた」と話されていた。その後、ご自分でドライブレコーダーを購入して取り付け、高速道路を走った時について速度を出し過ぎることがよく分かったと話されていた。ドライブレコーダーには速度も記録されており、気を付けなければいけないと言っていた。

(委員)

ドライブレコーダーを付けることによって、きちんと運転しなければいけないという気持ちになる。

(次長)

今は車自体が進化してきて、安全運転サポート車もいろいろ出てきている。東京オリンピックに向け、首都圏では、自動運転のための準備が進められている。

あと10年もすれば、このあたりでも自動運転の車が走るようになるのではないかと思う。20年前、携帯電話はとても大きいのを持ち歩いていたが、今では小型で軽量化したように車の自動化も進んで行くと思う。

(委員)

私は、バイクに乗り始めて12年になる。バイクは道路の状態にとっても影響を受けやすいので、少しの段差や路面が濡れていたり小石や砂利がある時は、転倒

する危険性がある。バイクを運転する時は、気を抜くと事故になりやすいので、気を付けて運転する癖が付いた。そのため、車を運転する時にもバイクと同様に危険の予測をしながら走るようになったので、良かったと思う。

先ほど反射材の話がされていたが、私がいる地域では、夜に散歩やジョギングをする人は、みんな黒っぽい服で反射材を着けている人はほとんどいない。夜、車で走っているとそういう人はやはり見えにくいので、なんとかして反射材を着けてもらうようにしなければいけないと思う。

運転免許証の自主返納は、身近にいる家族が危ないと感じた時に、家族が本人に自主返納を勧めるのが良いと思う。たしか周南市だったと思うが、市が市内を巡回するバスを1日何回か運行させて、高齢者の方で免許を自主返納した方が割安で乗れるようにしていたと思う。やはり、自主返納するにしてもその後の車の代わりになる交通手段がないと難しい面があると思うので、そのあたりを考えていかなければいけないと思う。

私は車を運転する際、高齢ドライバーの後ろをできるだけついて走らないようにしている。どういう行動をとるか予測不可能なので、高齢ドライバーの後ろについた時などは、自分が止まってその車の後ろを走らないようにしている。

(次長)

委員の中でバイクに乗られる方というのは少ないと思うが、バイクは体と一体となって動く感覚があるので、四輪に乗った時、運転がうまくなるということはあると思う。これから春になって暖かくなると角島方面へ向かうバイクや車が増えてくると思う。また4月1日には、豊北町では7年に1度の大規模な祭り「浜出祭」が行われる予定で、今その準備がされている。

(委員)

冬の間、角島も観光客が少なくて大変静かである。それと角島大橋の道路に寝そべって写真を撮る人もいなくなった。また、看板のおかげで大橋の上で魚釣りをする人も少なくなった。ただ、朝の5時や6時といった車の通行が少ない時間に釣りをする人を見かけることはある。

(次長)

夜間、他に事案対応等がなければ角島方面にパトカーを行かせ、釣り人がいれば警告するようにしている。釣り人の情報は、一般の方からも通報があるのでその時は対応している。もし今後、橋の上で釣りをしている人を見かけたら、迷わず110番していただきたい。110番すればその位置が直ぐに分かるので、対応するのも早い。

また、委員はドライブレコーダーを付けていると以前お聞きしたが、ドライブレコーダーに記録された映像を見たりすることがあるか。

(委員)

まだ記録した映像を見たことはない。映像は10日分くらい残っていて、古いものから消えて新しい映像が残るようになっている。

(次長)

映像をいちいち確認する必要はないと思うが、ドライブレコーダーの電源が入っているかどうかを確認することは必要である。仮に、交通事故が起きて事故の

過失が問題になったとしても、ドライブレコーダーを付けていればその立証に役に立つと思う。

(委員)

私の車には、走行中に道路の白線を踏むと音が出るようになっているし、車の前に障害物があると音が出て、同時にブレーキがかかるサポート機能が付いている。

(次長)

自動ブレーキがこれまでに作動したことはあるか。

(委員)

今のところ作動したことはない。

(次長)

今現在、車の機能がここまできているので、近い将来、小串署管内を自動運転車が走るようになると思う。角島でも高齢化が進んできていると思うが、夜間、散歩などする高齢者の方はいるのか。

(委員)

角島では、夜、出歩く高齢者の方はほとんど見かけない。お年寄りの方はだいたい早い時間に寝てしまう。

(委員)

昨年、私は反射材の着いた袋を作らせていただいて、非常にいい体験をさせてもらった。袋を作ることによって、反射材は、周りの人に自分の存在を気付いてもらうために着けるという意識を持つことが必要だと感じるようになったからである。袋を作ることによって、反射材に対するイメージが私自身の中で変わった気がする。ただ単に、安全のために反射材を着けようと高齢者の方に言うだけでは、皆さん自分のこととして感じられないと思う。反射材を着けるのは、自分の存在を他の人に気付いてもらうために着けるのだということを知ってもらうことが大切だと思った。

それと免許の自主返納のことであるが、私が育った所は交通の便がとても良い所だったので、こちらにお嫁に来るまで運転免許証は持っていなかった。結婚してこちらに来て免許証を取るまでの間は、外出する時はJRやバスを使っていた。車の無い時期を経験しているので、車に乗れなくなった時の移動手段を私自身分かっている。少し前に高齢者の交通事故をニュースで見te思ったが、免許の返納時期や免許を返納した後の生活のビジョンを描くことも必要だと思う。免許を返した後の移動手段をシミュレーションしておくの良いと思う。もう既にやられているかもしれないが、自動車学校などで免許を取得する話と免許を返す時が来るという話をセットでするのも良いのではないか。

(次長)

免許の自主返納については、国も大きく動いているところである。道路の逆走やブレーキとアクセルを間違えて歩行者をはねたという大きな事故も発生している。小串署管内の豊浦町・豊北町ともに高齢化率が進んでいる。特に豊北町では50パーセント近くまでなっている

(委員)

今、豊北町は50パーセントを越えている。

(地域交通課長)

豊北町だけ見れば50パーセントを越えていたと思う。豊浦町と豊北町を合わせれば40数パーセントだったと思う。

(次長)

今朝も免許更新をするため、90歳くらいの方が来られていた。その方は、かくしゃくとしていて、目も悪くないし認知症もない。高齢であることから、免許係の係員が自主返納について説明すると「自分の家は山の奥の方であって、生活するのに車がないと困る」と話していた。先ほど委員が言われたように、免許証を返納してからのビジョンがまったくくないような状態なので、そういう人達のことをどうするのかということも今後の問題である。

(委員)

行政ばかりに頼るのではなく、自分自身が免許を返したらどうするのかということを考えておかなければいけないのではないかと思います。

(次長)

少し前にスーパーが移動販売を始めたという記事が新聞に載っていたが、これは豊北町まで行くのか。

(委員)

私がいる地域には移動販売は来ている。

(委員)

豊北町には以前から個人の商店の方が車で販売に来ている。またコンビニも配達販売をしている。移動販売は、山間部を中心に回っているようである。海岸部は道の駅ができて、店で日用品や野菜や魚を販売している。

(次長)

私も以前、道の駅に行ってみて、何故、生活日用雑貨を売っているのか不思議に思っていたが、地域の方のための店であることを知って納得した。

(委員)

道の駅では、コンビニコーナーがあり、ちょっとした日用品は購入でき、海岸部は割と便利になっている。

滝部もバス停は何か所もあるが、地元の方はバス停に出るまでが大変だと話している。バスは走っているが、バス停に出るまでが大変でバスを利用する人はほとんどいない状態である。

(署長)

以前、田耕に住んでおられる方に聞いたことがあるが、買い物の荷物を多く抱えて、バス停から家までは歩けないと話されていた。

(委員)

今、街づくり協議会の中でも、高齢者が免許を返した後の移動方法について、いろいろと話し合っているところである。

(次長)

前に観たテレビ番組で、地域の中で特別区域を設置して、その区域の中であれば格安で住民の方を車に乗せ、病院まで行ったり、買い物をする店まで行くとい

うのを放送していた。このような取組がいろいろな場所で増えていけば、たとえ免許を返納しても違ってくると思う。

(委員)

私のいる地域では、以前から車で出掛ける時は、ご近所の方に声を掛け、何人か連れて出掛けるということをお大抵の方がやっている。何日の何時に出かけるからとか、帰りはどこそこで待っていれば連れて帰ると話しをして出かけている。

(次長)

そのように周囲の人とコミュニケーションを取れる人はいいが、独居でコミュニケーションを取れない方をどうするかは、行政や地域の問題であると思う。これと同じように警察では、うそ電話詐欺被害や交通事故防止の講習会を開催しても受講できない方をどうするかが今後の問題である。

(委員)

私は毎朝、ボランティアで交通立哨をしているが、通勤通学の時間帯に今後もパトカーで回っていただきたいと思う。ドライバーはパトカーを見ると運転に気を付けるので、交通事故抑止につながると思う。

(次長)

可能な限り交通安全日等の機会を設けてやっている。先般、山口県内でボランティアの方が立哨中に交通事故に遭われるというようなこともあったので、委員も十分気を付けていただきたい。

(委員)

私も十分気を付けてやっているが、未だに赤信号でも交差点に入る車があるので、子供達を渡らせる時は、安全を確認して渡らせている。

(次長)

朝は急いでいる者もいるので、子供達の安全とご自分の安全を最優先していただきたい。島根県では、自分の娘さんを交通事故で亡くされ、その後、交通ボランティアをするようになった方が、交通立哨中に酒気帯び運転の車にはねられるという悲惨な事故もあったので、そういったことにならないよう十分に気を付けてやっていただきたいと思う。

(委員)

先ほどのドライブレコーダーのことであるが、私のところで貸し出す車にはドライブレコーダーを着けている。仮に貸し出した車が交通事故を起こしても、ドライブレコーダーがあれば過失が問題になった時、立証するのに役立つ。事故の当事者は自分が悪くないように言うが、実際にドライブレコーダーの映像を見ると、言っていることと違うことが分かる。早期に事故の示談を進めるためにも、ドライブレコーダー装着車の貸し出しをしている。私も反射材の着用や車のライトの早め点灯は、周囲の人に自分の存在を知らせるのが一番の目的だと感じている。自分の身を守るために、他の人に自分の存在を分かってもらえることが大切だと思う。

(署長)

アメリカ、オーストラリア、アフリカなど大平原があるような所は、昼間でも車はライトを点けて走っている。これは自分の存在を他に知らせるためにライ

トを点けて走っているのである。ヘッドライトと赤いテールライトを見て、自分に近づいて来る車なのか遠ざかって行く車なのかが分かるように、ルールではないが常識として定着している。

(委員)

確かにそういうことはあると思う。トンネルの中でライトを点けていない車とすれ違ったりすると、一瞬ヒヤリとすることがある。自分の存在を他の者に知らせることが、自分の身を守ることになるので、自分の存在を知らせるという意識を持つことが大切だと思う。

(署長)

会長の言われるとおり、自分の身は自分で守っていくことが重要になってくる。

## 6 次回開催予定

平成30年度第1回小串警察署協議会の開催予定は、4月下旬か5月上旬頃とする。

## 7 配付資料

- 平成29年度第4回協議会資料～（警察署作成）
- 諮問事項関係資料～（交通死亡事故抑止対策の推進について）